

護衛艦あきづき



DD115 AKIZUKI



海上自衛隊

JAPAN MARITIME SELF DEFENSE FORCE

ようこそ!! 護衛艦「あきづき」へ

本日は、護衛艦「あきづき」にご来艦いただき、誠にありがとうございます。
皆様のご来艦を乗員一同心から歓迎いたします。

「あきづき」は、「あきづき型」護衛艦の1番艦として、三菱重工業株式会社
長崎造船所で建造され、平成24年3月14日に就役したヘリコプター搭載汎用
護衛艦です。

本艦は、従来の汎用護衛艦の任務に加え、弾道ミサイルの警戒・対処に従事す
るイージス艦を航空機等の脅威から防護する任務を与えられています。このため、
防空能力が強化され、広域搜索・追尾、目標処理能力の向上が図られております。

本日は、時間の許す限り本艦をご覧いただき、護衛艦「あきづき」と海上自衛
隊についてご理解いただければ幸いに存じます。なお、ご不明な点がございまし
たら、近くの乗員に遠慮なくお申し付け下さい。

あきづき艦長

WELCOME ABOARD JS "AKIZUKI"

Welcome to JS "AKIZUKI", We express our appreciation for your visiting today.

Our ship was constructed in Mitsubishi Heavy Industries, Ltd Nagasaki shipyard and commissioned on March 14, 2012 as 1st of AKIZUKI CRASS a multipurpose destroyer. She has capability of onboard and operates helicopters.

She adds it one duty to protect the Aegis engaged in watch and management of a ballistic missile from the threat of an airplane etc.

For this reason, air defense capability is strengthened and it has become the destroyer by which broader-based search and tailing and improvement in target throughput were achieved.

We hope you will enjoy the ship tour and it provides you a better understanding about the JS AKIZUKI and the Japan Maritime Self Defense Force.

if you have any questions or requests, please ask any member of my crew.

COMMANDING OFFICER
JS AKIZUKI

歴代あきづき -SUCCESSIVE AKIZUKI-



昭和17年6月13日舞鶴工廠で竣工
全長：134.2m 排水量：2701t 速力33kt
防空直衛艦秋月型12隻のネームシップ

昭和19年10月25日、レイテ海戦において、「秋月」を含む第六十一駆逐隊は小沢艦隊に所属し、エンガノ岬沖の戦いに参加。この海戦で、大編隊の敵機群と交戦中、味方空母「瑞鶴」に接近した魚雷を自らが犠牲となり受けたことにより沈没。



昭和35年2月13日三菱長崎造船所で竣工
全長：118m 排水量：2350t 速力32kt

アメリカの域外調達制度により日本で建造し供与された護衛艦。いったん米艦籍に入りDD960「Akizuki」となったがただちに自衛艦籍に移され護衛艦「あきづき」となった。

昭和36年 9月 1日から : 護衛艦隊旗艦

昭和60年 3月27日 : 特務艦に種別変更

平成 5年12月 7日 : 除籍

*本艦は3代目です。

ヘリコプター搭載護衛艦の変遷

海上自衛隊の護衛艦の艦名は、「天象・気象、山岳、河川、地方の名」が命名されています。「あきづき」も従来のヘリコプター搭載汎用護衛艦と同様に「天象・気象」から命名されました。

ヘリコプター搭載汎用護衛艦は、これまでに4つの型式をしていますが、昭和52年度から57年度建造の「ゆき型」(12隻)、昭和58年度から61年度建造の「きり型」(8隻)、平成3年度から9年度建造の「あめ型」(9隻)、平成10年度から13年度建造の「なみ型」(5隻)であり、確実に進化を遂げてきました。

本艦「あきづき」は5つ目の型式であり、「つき型」護衛艦の1番艦として建造されました。

「つき型」護衛艦は本艦のほか、平成26年度までに「てるづき」「すすづき」「ふゆづき」が就役しました。



ゆき型



きり型



あめ型



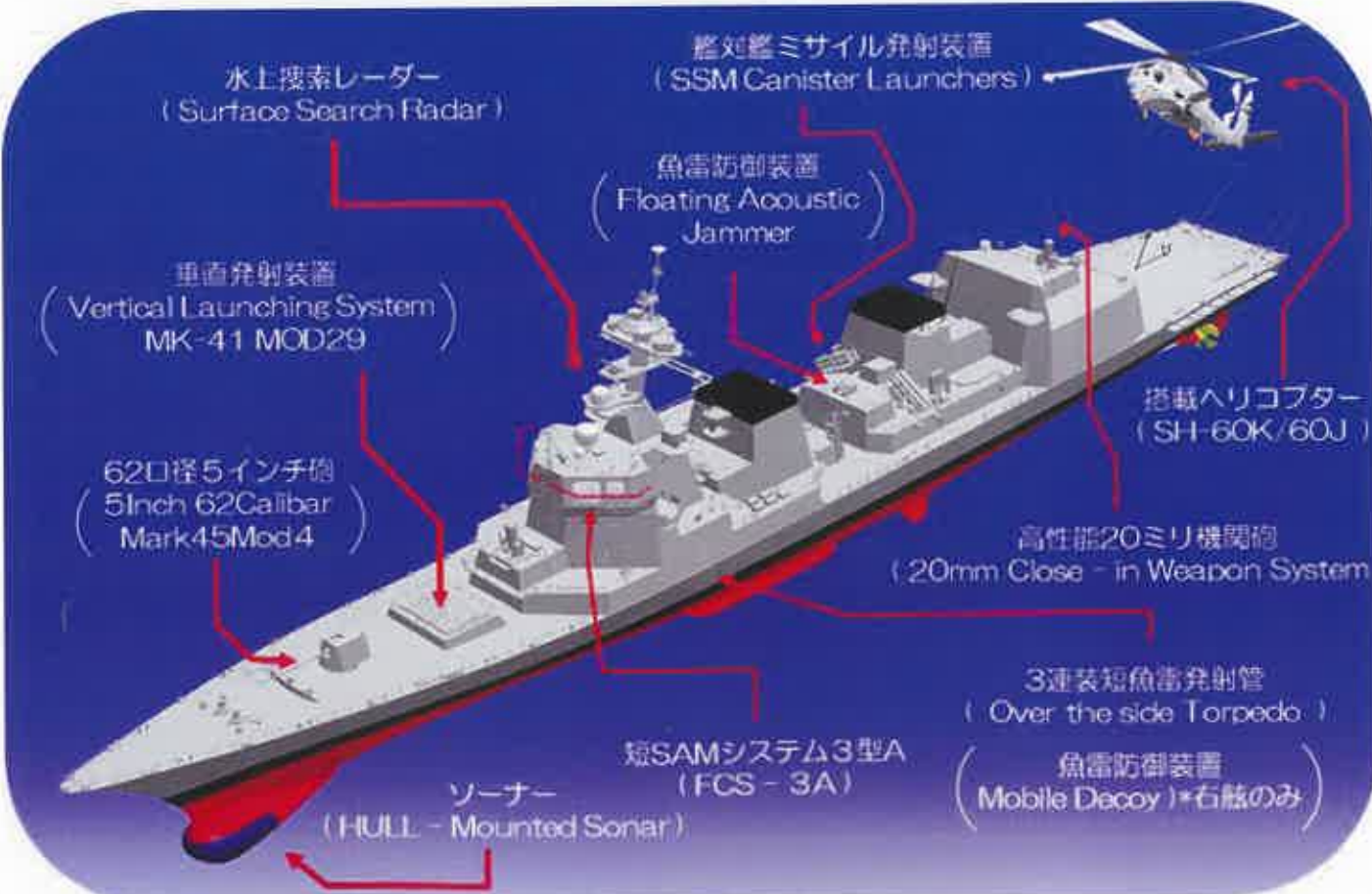
なみ型



性能要目 -SPECIFICATIONS-

起工 (Keel Laid)	：平成21年 7月17日
進水 (Launched)	：平成22年10月13日
就役 (Commissioned)	：平成24年 3月14日
建造所 (Builder)	：三菱重工業 (株) 長崎造船所
定係港 (Homeport)	：佐世保
排水量 (Displacement)	：5050トン
全長 (Length)	：151メートル
全幅 (Breadth)	：18.3メートル
喫水 (Draft)	：5.4メートル
機関 (Main engine)	：ガスタービン (スレイSM1C) ×4基
推進機 (Propellers)	：可変ピッチプロペラ×2軸
軸馬力 (Shaft Horsepower)	：64000馬力
速力 (Speed)	：約30ノット
乗員 (Crew)	：約220名

主要装備概観図 -APPEARANCE-



主要武器 -Weapons-



62口径5インチ砲

(5-inch 62-Caliber Mark 45 Mod 4)

62口径5インチ砲は、米国で開発されたMk 45 Mod 4 Naval Gunを(株)日本製鋼所がライセンス生産したもので全天候、夜間、対地、対水上及び対空戦闘が可能である。



高性能20mm機関砲

(Close In Weapon System)

目標の捜索から撃破まで完全自動にすることにより高速の航空機及びミサイルから艦を守ることができる。



垂直発射装置 (VLS)

(Vertical Launching System MK41 MOD29)

対空ミサイル及び対潜水艦用アスロックミサイルの発射が可能である。目標の方位や艦の斜路に左右されることなく、ミサイルを発射することができる。



90式艦対艦誘導弾

(SSM-1B)

90式艦対艦ミサイルは、陸上自衛隊で使用されている88式地対艦ミサイル (SSM-1) の改良、艦載型であり、これまで主に使用されていたハーブーンに変わり艦艇に搭載されている艦対艦ミサイルである。



水上発射管 (HOS-303)

単独で操作される3本の管体で構成されており、荒天状況下でも魚雷を管体内に格納でき、近距離にいる潜水艦に対し、魚雷を発射することができる。



短SAMシステム3型A (FCS-3A)

情報処理装置 (CDS) との連携のもと、目標を自動で捜索、探知、追尾し、砲管制 (MK-45 mod 4)、ミサイル (ESSM) の誘導管制を行い、同時多目標対処を可能とした最新の国産射撃指揮装置である。



MOD (Mobile Decoy)

敵方からの魚雷に対し、音響的欺まんを実施しながら、自走することにより、魚雷を誘引する。



FAJ (Floating Acoustic Jammer)

ランチャーから発射後、飛翔し、海面近くに浮遊して妨害音を発音することにより、敵方からの魚雷に対し、音響的に妨害する。

搭載ヘリコプター SH-60K



全長 (Length Overall)	: 約 20m
全幅 (Breadth)	: 約 16m
高さ (Height)	: 約 5m
重量 (Weight)	: 約 11t
馬力 (SHP)	: 2,145馬力×2
航続距離 (Distance)	: 約 700km
最大速度 (Speed)	: 168k t (300 km/h)
乗員 (Complement)	: 4名 (最大8名)



搭載武器 (Weapon)



航空魚雷 (Torpedo)



ヘルファイヤー (ASM)

「あきづき」活躍の姿



スタンプ

年 月 日



また、来てくれよにゃ!

また、

お会いできる日を

楽しみにしています!

今日は、

ありがとうございました v(^▽^)/



海上自衛隊の部隊に関する情報やイベント情報などは、
海上自衛隊ホームページをご覧ください。



<http://www.mod.go.jp/msdf/>